

## H28 試験研究課題評価一覧（概要）

部会	評価区分	試験研究課題名	部会評価	外部評価	試験期間	対応方向
農産部会	事前	麦・大豆の新品種を核とした安定栽培技術の構築	A	A	H29～31	・生産現場の実態や実需者等のニーズを踏まえた普及の可能性について、今後とも、関係部署と協議を継続し、生産普及方向に沿った技術開発を効率的に進めていく。
〃	事前	新富山ブランド米の戦略的栽培技術の開発	A	A	H29～31	・新品種については、高付加価値化を図るため特別栽培米生産への取組みが期待されているが、有機質肥料の肥効発現は化成肥料に比べ不安定であり、高品質・安定収量を得るためには土壌条件や栽培管理等も含め対応する必要がある。 ・このため、圃場選定等についても普及指導機関をはじめ関係機関と協力しながら対応し、新品種のブランド化を進めたい。
〃	事後	野菜を組み込んだ水稲・大麦・大豆の超省力作業体系の実証	B	A	H26～27	・自動操舵システムに関して、今後の関連技術の進展を注視するとともに、費用対効果も考慮しながら、実用化に向けたさらなる研究の取組みについて検討していく。
〃	追跡	土壌診断法を活用したダイズ立枯性病害の防除技術の開発	a	a	H23～25	・黒根腐病については、薬剤のみでの完全防除は困難であり、被害も拡大傾向にあることやコスト面からも耕種的な対策技術の早急な開発が必要である。
園芸部会	事前	チューリップ球根ロボット栽培に対応した新たな病害対策の開発	A	A	H29～30	・球根ロボットを活用するための補完技術であり、農林振興センター等指導機関との連携を図り、できるだけ早く生産現場に普及できるよう努める。 また、委員からご指摘のあった生産コスト面や天候の影響を加味した除草剤利用技術についても、関係機関と十分協議し、研究成果(指針)を示す。
〃	事前	富山型ポットイチジク栽培技術の確立	A	A	H29～32	・「コナドリア」の小容量根域制限栽培技術の開発は、生産現場、実需者双方からの要望である。主穀作経営体等に提案できる新たな品目・技術体系として、可能な限り、早期の技術確立に努める。
〃	事後	秋まきタマネギの飛躍的な省力化と品質向上のための技術の開発	A	A	H26～27	・畝間かん水については、現在、根深ネギでも試験中であり、新たな効果も見つかっていることから、今後、当該データを示す。 ・TPP 対策については、業務加工用需要に対応した省力低コスト化技術として、直播栽培に取り組んでいる。今後、現地適応性評価を行う予定である。 ・連作障害については、病害について、農業研究所病理昆虫課で研究中であり、協力して取り組む。
畜産部会	事前	地域由来粗飼料を活用した高泌乳牛の乾乳期低栄養飼養管理技術の開発	A	A	H29～31	・H29 年度から新たに課題化することを適当とする。 ・地域未利用資源である大麦わらが乾乳期における乳牛の適正な飼養管理に活用できるよう、その利用特性についても十分検討を行う。
〃	事前	ICT 技術等を活用した黒毛和種の効率的な管理技術の確立	A	A	H29～31	・H29 年度から新たに課題化することを適当とする。 ・ICT 技術を活用することによって、個体に関する非常に多くの情報を得ることができると思われるが、その情報を農家が容易にかつ低コストで活用できる方法の開発が必要と思われる。
〃	事前	系統豚「タテヤマヨークⅡ」の連産性評価および生産子豚の離乳率向上技術の確立	A	A	H29～31	・H29 年度から新たに課題化することを適当とする。 ・本研究の取組は、系統豚「タテヤマヨークⅡ」の生産現場での活用促進と生産効率向上に貢献すると期待できる。

〃	事後	受精卵移植で生産した和子牛の健全哺育技術の確立	A	A	H25 ～27	・今後、本研究の成果を哺育マニュアルに反映させて活用し、関係機関と連携して普及させる。
〃	事後	種豚選抜に有効な経済形質マーカーの検討	B	A	H25 ～27	・本研究成果は遺伝的能力の高い種豚の供給や選抜に活用されることから、富山ブランドの確立に貢献することが期待できる。
〃	事後	河川堤防除草した刈草の飼料利用技術の開発	A	A	H25 ～27	・実用化に向けて、畜産農家と河川管理者間の連携体制を構築することが必要である。
食品 加工 部会	事前	県産「紅ズワイガニ」の品質評価と新たな加工品の開発	A	A	H29 ～31	・本研究で開発する紅ズワイガニの加工品には高品質の干物、ふりかけやお茶漬け等を考えている。 ・ブランド化のための鮮度管理や加工品開発については、研究の当初から漁業者、水産研究所や水産加工業者等と幅広く連携し研究を推進する。
〃	事前	菌体外多糖を生産する微生物の分離と食品製造への応用	A	A	H29 ～33	・研究成果の実用化に向けては、県外企業への普及も想定し、国等の研究機関や大学、企業との産学官共同研究も視野に入れた研究開発に取り組む。
〃	事前	膜利用技術を用いた乳化食品製造技術の開発	A	A	H29 ～31	・乳化食品に含まれる油やそれに溶解した脂溶性機能成分の中には、非常に酸化されやすいものもあるため、その抑制方法の検討や品質評価も行う。 ・エゴマを原料とした高級健康飲料等、比較的製品単価の高い食品をターゲットとするため、県内食品企業においても設備導入コストを償却できる。
〃	事後	富山県オリジナル酵母の探索と改良	A	A	H24 ～27	・現在、「とやま酵母を使用した新しいタイプ」の清酒の開発（平成28年～30年）の事業で、県内の自然界から分離した酵母を育種・改良した酵母を用いた、低アルコール酒、発泡性清酒等の開発に取り組んでいる。
林業 部会	事前	コナラの実生更新技術の開発	A	A	H29 ～33	・すでに高齢・大径化したコナラ林の更新技術に関する課題であるので、今後、用材としての需要が拡大し、将来的にも継続するようであれば、そのような利用の可能性も考慮しながら研究を進めたい。
〃	事前	ドローン空撮画像を用いた新たな森林管理手法の開発	A	A	H29 ～31	・森林組合等の林業事業者が、自らデータの収集・活用ができるようになることを研究目的の基本として、機器の開発、データの収集方法や解析技術の進展について、他分野での活用状況などの情報も収集しながら研究を進めたい。
〃	事後	既存住宅に対応した制振パネル工法の開発	A	A	H25 ～27	・研究成果が広く普及されるよう関連企業等と検討していきたい。
〃	事後	圧縮木材の形状復元挙動を活用した耐震面格子壁の開発	A	A	H26 ～27	・本年度の実施行結果等をふまえ、今後は現場での施工利用及びその後の追跡などについて、研究を深めて社会貢献性をより大きなものにした。
水産 部会	事前	キジハタ等栽培漁業対象種モニタリング調査	A	A	H29 ～33	・ヒラメ及びアワビについては、計画期間内に放流効果を明確にできるよう迅速に調査・検討を進めたい。さらに、回収された放流魚（貝）の漁業への貢献度合について重量で示すなど分かりやすい指標での表現を検討したい。 キジハタについては、県内地先における生態の基礎的知見の把握に努め、放流効果を明らかにしたい。また、漁獲物の利用や販路拡大に向けた取組みについても検討してまいりたい。

## 評価の区分

- (1) 事前評価：新規に実施しようとする課題について、必要性や貢献可能性、研究内容が適切であるか等について予算要求前に評価を行う。
- (2) 中間評価：原則として5年以上の期間にわたる課題について、原則として開始後3年目毎に試験研究の進捗状況、社会情勢の変化等を踏まえ、研究内容が適切であるか等について評価を行う。
- (3) 事後評価：試験研究が終了した課題について、原則として終了年度にその研究成果について評価を行う。
- (4) 追跡評価：試験研究が終了した課題について、終了後数年後にその研究成果の普及状況や貢献度について評価を行う。

## 部会・外部委員会評価における評価基準

	事前評価	中間評価	事後評価	追跡評価	
A	優れている	優れている	優れた成果が得られた	a	貢献度は高い
B	妥当	妥当	良好な成果が得られた	b	貢献度は妥当
C	部分的見直しが必要	部分的見直しが必要	予定された成果にはやや至らなかった	c	貢献度はやや低い
D	全面的見直しが必要	全面的見直しが必要	それほどの成果が得られなかった	d	貢献度は低い
E	実施せず	中止	成果が得られなかった	e	貢献度は非常に低い